MASPRO

CATV 幹線増幅器（トランクアンプ） 幹線分岐増幅器（トランクブリッジャーアンプ）

取扱説明書

伝送周波数帯域 70〜250MHz

TRUNK AMPLIFIER

SLA26PG2

パイロットキャリアAGC付

TRUNK BRIDGER AMPLIFIERS

SLA26A4N2

NHK 共同受信機材適合品（NH-TA1-4）

SLA26A4PG2

パイロットキャリアAGC付
NHK 共同受信機材適合品（NH-TA1G-4）

AC20〜30V方式

SLA26A4PG2

MASter of PROduction 生産の覇者

高度なシステムに対応する性能と機能

地上ディジタル放送に対応

地上アナログ放送信号に加え，ミッドバンドに周波数変換した地上ディジタル放送信号を，最大9波伝送できます。

パイロット周波数を選択可能 （SLA26PG2・SLA26A4PG2）

パイロット周波数を148MHzまたは246MHzのいずれかに設定できますから，ミッドバンド伝送でAGC運用が可能です。

ツイストAGC回路 （SLA26PG2・SLA26A4PG2）

チルト補償ができるツイストAGC回路を内蔵していますから，ケーブルの温度特性によって入力レベルが変動しても，出力レベルを一定に保つことができます。

AGC／MGC自動切換回路 （SLA26PG2・SLA26A4PG2）

パイロットキャリアが停波したときに，利得調整をAGCから，MGCに自動的に切換えますから，出力レベルの大幅な変動がなく，混変調・相互変調妨害が発生しません。

調整範囲の広いBON

1dBステップで最大7dB／222MHzまで可変できるBONを内蔵していますから，前段アンプからのケーブルが短くても，適切な入力レベルに調整できます。

周波数特性等化器

幹線に挿入した分岐器・分配器などの平坦損失によって発生する標準入力レベルとの差を，0〜㊀3dB／222MHzの範囲で連続して調整できます。

信頼性の高い避雷対策

高信頼型避雷回路

応答速度の速いサージアブソーバーと，耐雷フィルターを使用していますから，誘導雷による被害を最小限にとどめます。

- ● ご使用の前に，この「取扱説明書」をよくお読みください。
- ● お読みになったあとは，保存してください。

各部の名称と機能

SLA26PG2

ご注意

- レベルを調整するときは，調整用ドライバーを使用してください。無理に回すとこわれることがあります。
- 各スイッチは軽く操作してください。力を入れすぎるとこわれることがあります。

入力レベル調整

周波数特性等化調整

- 幹線に分岐器・分配器などを挿入する場合，使用します。
- 0～㊀3dB／222MHzの範囲で，連続して調整できます。

BON（1, 2, 4dB）

- 前段アンプからのケーブルが短く，入力レベルが高くなる場合，使用します。
- 1dBステップで最大7dB／222MHzまで調整できます。
- 出荷時は「0dB」になっています。

幹線出力レベル調整

AGC作動表示灯

AGC作動のとき，点灯します。

MGC調整

MGC作動のとき，幹線出力レベルが±3dB／222MHzの範囲で，連続して調整できます。

MGC／AGC切換スイッチ

出荷時は「AGC」になっています。

AGC調整

AGC作動のとき，幹線出力レベルが調整できます。

入力端子（FT型コネクター）

電流通過設定端子（入力端子）

p.4「電流通過の設定」をご覧ください。

AC入力1

電源ユニット接続コネクター

電源直接供給端子（AC30V）

電源供給器からのケーブルを接続して，電源を直接受電できます。

p.5「電源直接供給端子の使用方法」をご覧ください。

電源ユニット（DC18V）

幹線出力端子（FT型コネクター）

電流通過設定端子（幹線出力端子）

p.4「電流通過の設定」をご覧ください。

AC入力2

電流通過設定端子（分岐出力端子）

p.4「電流通過の設定」をご覧ください。

パイロット周波数切換スイッチ

出荷時は「148MHz」になっています。

p.4「パイロット周波数の設定」をご覧ください。

底面

アース端子

分岐出力端子（㊀10dB）（FT型コネクター）

入力測定端子（㊀10dB）（F型コネクター）

BON，周波数特性等化器通過後のレベルを出力します。

幹線出力測定端子（㊀20dB）（F型コネクター）

SLA26A4N2・SLA26A4PG2

（写真は**SLA26A4PG2**です）

入力レベル調整

周波数特性等化調整

- 幹線に分岐器・分配器などを挿入する場合，使用します。
- 0～⊖3dB／222MHzの範囲で，連続して調整できます。

BON（1, 2, 4dB）

- 前段アンプからのケーブルが短く，入力レベルが高くなる場合，使用します。
- 1dBステップで最大7dB／222MHzまで調整できます。
- 出荷時は「**0dB**」になっています。

幹線出力レベル調整

※の機能は，**SLA26A4N2**にはありません。

AGC作動表示灯 ※

AGC作動のとき，点灯します。

MGC調整

MGC作動のとき，幹線出力レベルが±3dB／222MHzの範囲で，連続して調整できます。

MGC／AGC切換スイッチ ※

出荷時は「**AGC**」になっています。

AGC調整 ※

AGC作動のとき，幹線出力レベルが調整できます。

分岐出力レベル調整

スロープ調整

分岐出力のチルト量が4～8.5dB／90MHzの範囲で，連続して調整できます。（222MHzの出力レベルは変わりません）

利得調整

分岐出力レベルが±2dBの範囲で，連続して調整できます。

入力端子

（FT型コネクター）

電流通過設定端子（入力端子）

p.4「電流通過の設定」をご覧ください。

分岐出力端子1

（FT型コネクター）

AC入力1

分岐出力端子3

（FT型コネクター）

電流通過設定端子（分岐出力端子1）

p.4「電流通過の設定」をご覧ください。

電流通過設定端子（分岐出力端子3）

p.4「電流通過の設定」をご覧ください。

電源ユニット接続コネクター

幹線出力端子

（FT型コネクター）

電流通過設定端子（幹線出力端子）

p.4「電流通過の設定」をご覧ください。

分岐出力端子2

（FT型コネクター）

AC入力2

分岐出力端子4

（FT型コネクター）

電流通過設定端子（分岐出力端子2）

p.4「電流通過の設定」をご覧ください。

電流通過設定端子（分岐出力端子4）

p.4「電流通過の設定」をご覧ください。

電源ユニット

（DC18V）

電源直接供給端子

（AC30V）

電源供給器からのケーブルを接続して，電源を直接受電できます。

p.5「電源直接供給端子の使用方法」をご覧ください。

パイロット周波数切換スイッチ

（**SLA26A4N2**にはありません）

出荷時は「**148MHz**」になっています。

p.4「パイロット周波数の設定」をご覧ください。

底面

アース端子

入力測定端子（⊖10dB）

（F型コネクター）

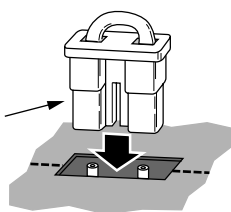
BON，周波数特性等化器通過後のレベルを出力します。

分岐出力測定端子（⊖20dB）

（F型コネクター）

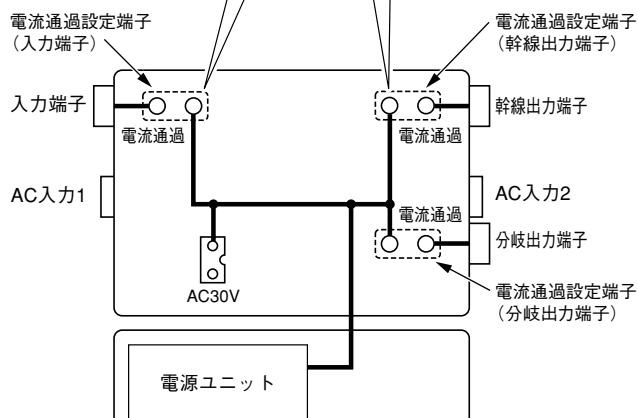
幹線出力測定端子（⊖20dB）

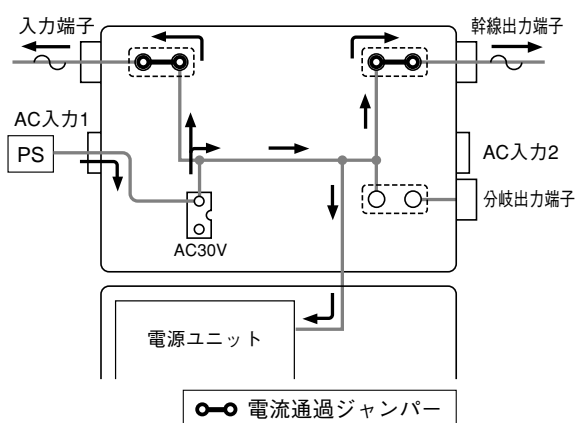
（F型コネクター）

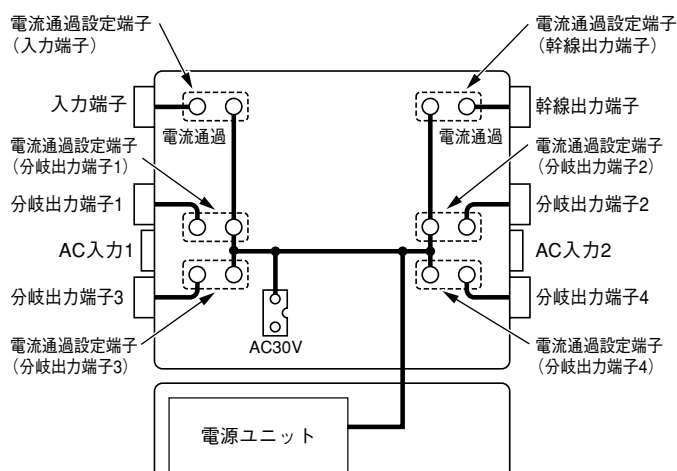
電流通過の設定

ご注意

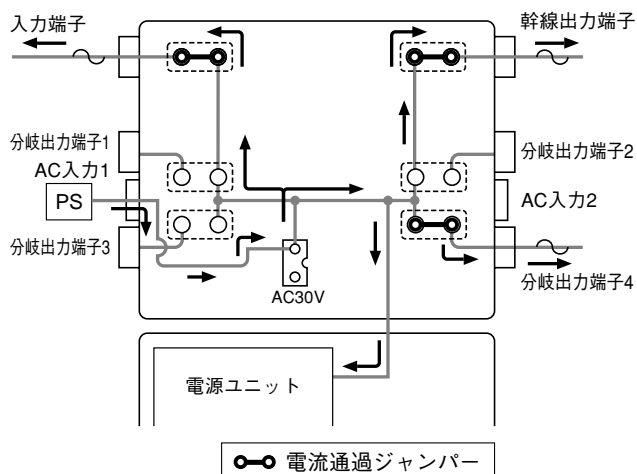
- システムの電流通過系統の確認ができるまで，電源を供給しないでください。
- 電流通過ジャンパーは，電源供給中に操作しないでください。故障の原因となります。

SLA26PG2

電流通過系統図

設定例

付属の電流通過ジャンパーを2個使用して，電源ユニット，入力端子，幹線出力端子へ電流通過させる場合

SLA26A4N2・SLA26A4PG2

電流通過系統図

設定例

電流通過ジャンパーを3個使用して，電源ユニット，入力端子，幹線出力端子，分岐出力端子4へ電流通過させる場合

パイロット周波数の設定

（**SLA26PG2・SLA26A4PG2**）

パイロット周波数切換スイッチで，パイロット周波数を「**148MHz**」または「**246MHz**」に設定します。

ご注意

ミッドバンドで，信号を伝送する場合，必ずパイロット周波数切換スイッチを「**246MHz**」にしてください。「**148MHz**」に設定すると，誤作動の原因となります。

電源直接供給端子の使用方法

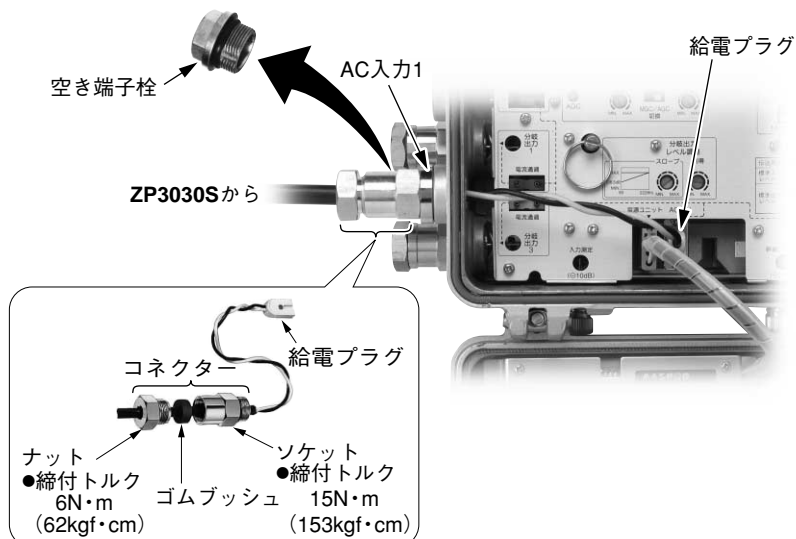
写真は「AC入力1」から給電した例です。「AC入力2」からも給電することができます。

電源供給器ZP3030Sの場合

① 「AC入力1」の空き端子栓を外します。

② 電源供給器からの給電プラグを「AC入力1」に通します。

③ 電源供給器からのコネクターを「AC入力1」に取付けて，指定の締付トルクで締付けてください。

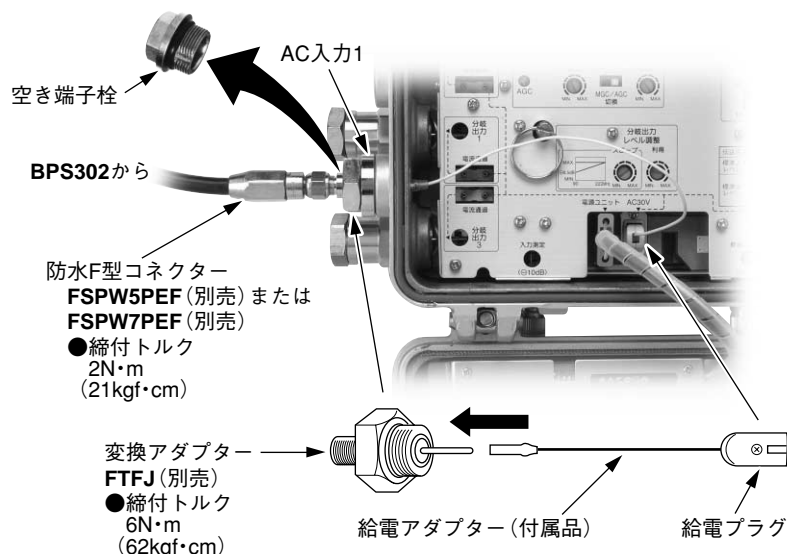
④ 給電プラグを電源直接供給端子に接続します。

電源供給器BPS302の場合

① 「AC入力1」の空き端子栓を外します。

② 別売の変換アダプターを「AC入力1」に取付けて，指定の締付トルクで締付けてください。

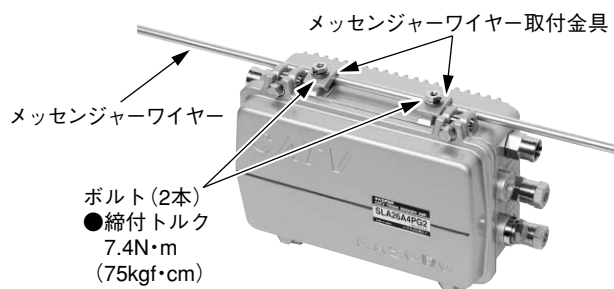
③ 付属の給電アダプターを変換アダプターに取付けます。

④ 電源供給器からの防水F型コネクターを変換アダプターに取付けて，指定の締付トルクで締付けてください。

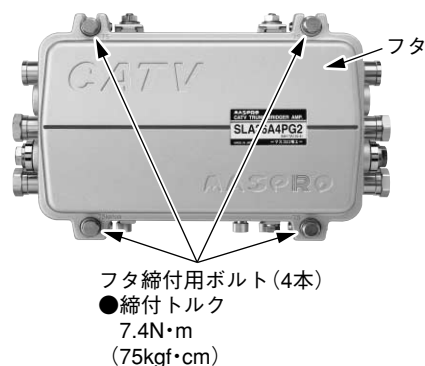
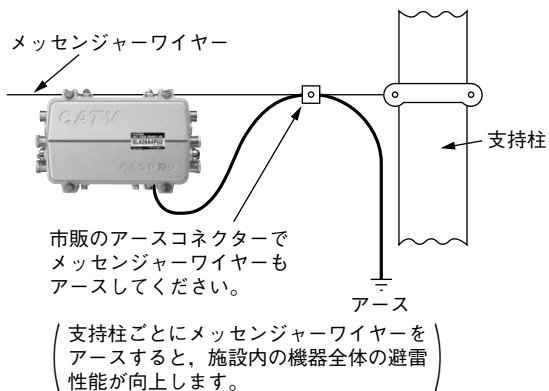
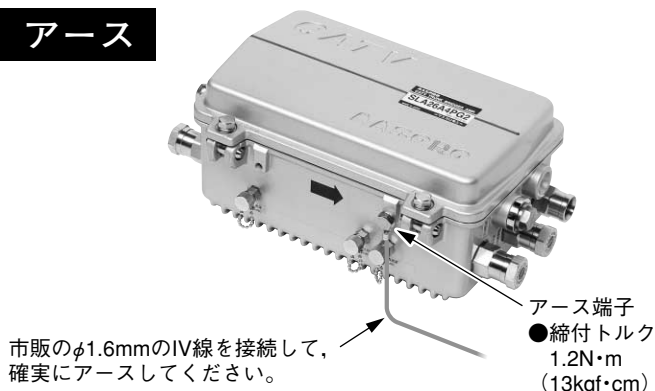
⑤ 給電プラグを電源直接供給端子に接続します。

取付方法

● メッセンジャーワイヤー取付金具にメッセンジャーワイヤーをはさんで，ボルト（2本）を締付けてください。

● ボルト（2本）は，13mmのトルクレンチを使用して，指定の締付トルクで締付けてください。

> 支持柱・腕金・板壁面に取付ける場合，別売の取付金具**TMK120**を使用してください。
> （詳しくは，**TMK120**の取扱説明書をご覧ください）

フタ締付用ボルト

● フタをハウジング本体にしっかり合わせてから，フタ締付用ボルト（4本）を締付けてください。

● フタ締付用ボルト（4本）は，13mmのトルクレンチを使用して，指定の締付トルクで均等に締付けてください。

アース

ユニットの交換方法

ご注意

必ず施設の電源を切ってから交換してください。電源を入れたまま，ユニットを交換すると，故障の原因となります。

電源ユニット

① 増幅ユニットから，電源ユニット接続コネクターを外してください。

② 固定ビスⓐ・ⓑをゆるめて，電源ユニットを取外してください。

③ 新しい電源ユニットと交換して，固定ビスⓐ・ⓑを指定の締付トルクで締付けてください。
●締付トルク
0.5N・m
(5.2kgf・cm)

④ 電源ユニット接続コネクターを増幅ユニットに接続してください。

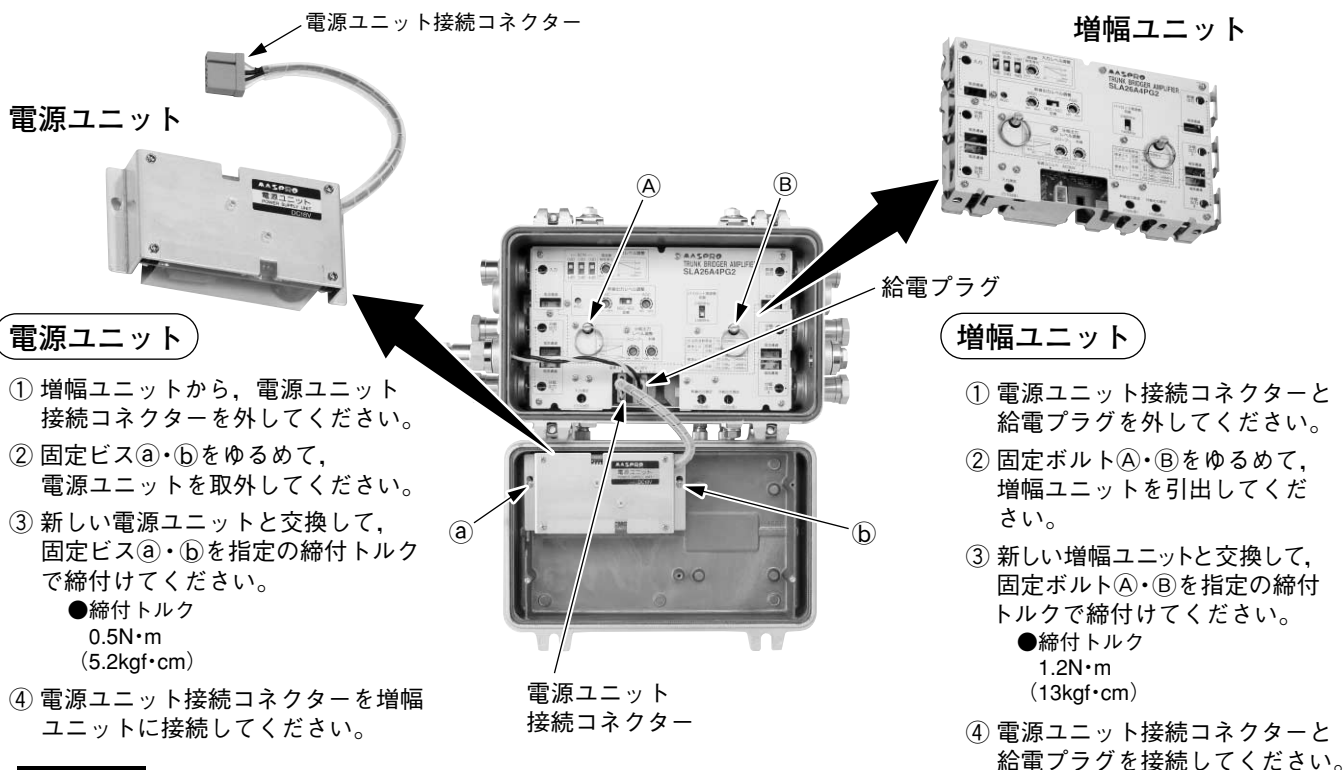
増幅ユニット

① 電源ユニット接続コネクターと給電プラグを外してください。

② 固定ボルトⒶ・Ⓑをゆるめて，増幅ユニットを引出してください。

③ 新しい増幅ユニットと交換して，固定ボルトⒶ・Ⓑを指定の締付トルクで締付けてください。
●締付トルク
1.2N・m
(13kgf・cm)

④ 電源ユニット接続コネクターと給電プラグを接続してください。

ご注意

固定ボルトⒶ・Ⓑおよび固定ビスⓐ・ⓑは，指定の締付トルクで締付けてください。ボルト・ビスがゆるむと，正常に作動しないことがあります。

正しく使用していただくために

予定の出力レベルまたはよい画質が得られないときは，次のチェックをしてください。

出力測定端子に信号が出ない

電源(AC20～30V)が供給されていますか。
- 電源供給器の電源チェック
- 電源ユニット接続コネクターのチェック
- 電流通過ジャンパーのチェック

入力信号がきていますか。
- 入力測定端子での入力レベルのチェック
- 入力側コネクターとケーブルの接続チェック
- ケーブルのチェック

出力レベルが低く，画面にスノーノイズが多い

入力レベルが不足していませんか。
- 前段アンプの出力レベルチェック
- 入・出力コネクターとケーブルの接続チェック

入・出力レベルを測定するときのご注意

レベルを測定するときは，測定用75Ωケーブルの減衰量も加算してください。

実際のレベル ＝ 測定値 ＋ 測定端子結合量 ＋ ケーブル減衰量

S5CFV 15mの減衰量

周波数(MHz)	70	100	130	148	160	190	220	246	250
減衰量(dB)	0.8	1	1.2	1.2	1.3	1.4	1.5	1.6	1.6

以上の方法でもトラブルが解決できない場合，お近くの当社支店・営業所または本社技術相談までお問合わせください。

規格表

SLA26PG2

MASPRO

項目		規格
伝送周波数帯域		70～250MHz
伝送波数		7波（アナログTV信号）＋9波（ディジタル信号）（⊖10dB運用）
利得	最大	16.4dB／90MHz，26dB／222MHz
	標準	14.5dB／90MHz，23dB／222MHz
	最小	12.6dB／90MHz，20dB／222MHz
パイロット周波数		148MHz，246MHz（切換）
AGC特性		出力87.7dBμ±1dB以内／148MHz 出力93.2dBμ±1dB以内／246MHz（入力69dBμ±5dBのとき）
入力レベル調整範囲	BON	0～7dB／222MHz（1dBステップ）
	周波数特性等化	0～⊖3dB以上／222MHz（連続可変）
出力レベル調整範囲	MGC	±3dB以上／222MHz（連続可変）
周波数特性		±1dB以内
帯域内利得偏差		±0.5dB以内（各チャンネルごと）
利得安定度		±1dB以内
雑音指数		10dB以下
入・出力インピーダンス		75Ω（FT型コネクター）
分岐出力端子結合量		⊖10dB（FT型コネクター）
VSWR		1.5以下
最大出力レベル		102dBμ／222MHz 混変調・2次相互変調 ⊖60dB以下
ハム変調		⊖66dB以下
耐雷性		25kV（1.2／50μs）のサージ電圧に耐えること
不要放射		34dBμ／m以下
測定端子結合量		入力：⊖10dB（F型コネクター） 出力：⊖20dB（F型コネクター）
使用温度範囲		⊖20～⊕40℃
質量（重量）		約3.7kg
電源		AC20V 0.37A，AC25V 0.33A，AC30V 0.29A
消費電力		約9VA
外観寸法		199（H）×310（W）×129（D）mm
シンボル		

付属品

電流通過ジャンパー…… 4個
（予備1個含む）
給電アダプター ………… 1個

SLA26A4N2

MASPRO

項目		規格 幹線	規格 分岐
伝送周波数帯域		70～250MHz	
伝送波数		7波（アナログTV信号）＋9波（ディジタル信号）（⊖10dB運用）	
利得	最大	16.4dB／90MHz，26dB／222MHz	28.4dB／90MHz，38dB／222MHz
	標準	14.5dB／90MHz，23dB／222MHz	24.5dB／90MHz，33dB／222MHz
	最小	12.6dB／90MHz，20dB／222MHz	20.6dB／90MHz，28dB／222MHz
入力レベル調整範囲	BON	0～7dB／222MHz（1dBステップ）	――
	周波数特性等化	0～⊖3dB以上／222MHz（連続可変）	
出力レベル調整範囲	MGC	±3dB以上／222MHz（連続可変）	――
	利得	――	±2dB以上（連続可変）
	スロープ	――	4～8.5dB以上／90MHz（連続可変）
周波数特性		±1dB以内	±2dB以内
帯域内利得偏差		±0.5dB以内（各チャンネルごと）	±1dB以内（各チャンネルごと）
利得安定度		±1dB以内	±2dB以内
雑音指数		10dB以下	――
入・出力インピーダンス		75Ω（FT型コネクター）	
分岐出力端子間阻止量		――	14dB以上
VSWR		1.5以下	
最大出力レベル		102dBμ／222MHz 混変調・2次相互変調 ⊖60dB以下	109dBμ／222MHz 混変調・2次相互変調 ⊖46dB以下
ハム変調		⊖66dB以下	⊖60dB以下
耐雷性		25kV（1.2／50μs）のサージ電圧に耐えること	
不要放射		34dBμ／m以下	
測定端子結合量		入力：⊖10dB（F型コネクター） 出力：⊖20dB（F型コネクター）	出力：⊖20dB（F型コネクター）
使用温度範囲		⊖20～⊕40℃	
質量（重量）		約4.2kg	
電源		AC20V 0.68A，AC25V 0.58A，AC30V 0.52A	
消費電力		約16VA	
外観寸法		199（H）×326（W）×129（D）mm	
シンボル			

付属品

電流通過ジャンパー…… 7個
（予備1個含む）
給電アダプター ………… 1個

マスプロの規格表に絶対うそはありません。
ご理解と信頼あるデータにご期待ください。

規格表

SLA26A4PG2

MASPRO

項目		規格 幹線	規格 分岐
伝送周波数帯域		70～250MHz	
伝送波数		7波（アナログTV信号）＋9波（ディジタル信号）（⊖10dB運用）	
利得	最大	16.4dB／90MHz，26dB／222MHz	28.4dB／90MHz，38dB／222MHz
	標準	14.5dB／90MHz，23dB／222MHz	24.5dB／90MHz，33dB／222MHz
	最小	12.6dB／90MHz，20dB／222MHz	20.6dB／90MHz，28dB／222MHz
パイロット周波数		148MHz，246MHz（切換）	―――
AGC特性		出力87.7dBμ±1dB以内／148MHz 出力93.2dBμ±1dB以内／246MHz （入力69dBμ±5dBのとき）	
入力レベル調整範囲	BON	0～7dB／222MHz（1dBステップ）	
	周波数特性等化	0～⊖3dB以上／222MHz（連続可変）	
出力レベル調整範囲	MGC	±3dB以上／222MHz（連続可変）	―――
	利得	―――	±2dB以上（連続可変）
	スロープ	―――	4～8.5dB以上／90MHz（連続可変）
周波数特性		±1dB以内	±2dB以内
帯域内利得偏差		±0.5dB以内（各チャンネルごと）	±1dB以内（各チャンネルごと）
利得安定度		±1dB以内	±2dB以内
雑音指数		10dB以下	―――
入・出力インピーダンス		75Ω（FT型コネクター）	
分岐出力端子間阻止量		―――	14dB以上
VSWR		1.5以下	
最大出力レベル		102dBμ／222MHz 混変調・2次相互変調 ⊖60dB以下	109dBμ／222MHz 混変調・2次相互変調 ⊖46dB以下
ハム変調		⊖66dB以下	⊖60dB以下
耐雷性		25kV（1.2／50μs）のサージ電圧に耐えること	
不要放射		34dBμ／m以下	
測定端子結合量		入力：⊖10dB（F型コネクター） 出力：⊖20dB（F型コネクター）	出力：⊖20dB（F型コネクター）
使用温度範囲		⊖20～⊕40℃	
質量（重量）		約4.2kg	
電源		AC20V 0.68A，AC25V 0.58A，AC30V 0.52A	
消費電力		約16VA	
外観寸法		199（H）×326（W）×129（D）mm	
シンボル		▷	

マスプロの規格表に絶対うそはありません。
ご理解と信頼あるデータにご期待ください。

MASter of PROduction
生産の覇者

付属品

電流通過ジャンパー・・・・・・ 7個
（予備1個含む）
給電アダプター ・・・・・・・・・・・ 1個

製品向上のため 仕様・外観は変更することがあります。

意匠登録 第772575号

マルチメディアの
＝マスプロ電工＝

本社〒470-0194（本社専用番号） 愛知県日進市浅田町
営業部 TEL名古屋（052）802-2244
工事営業部 〃 （052）802-2225
技術相談 〃 （052）805-3366
インターネットホームページ www.maspro.co.jp

支店・営業所
沖縄 （098）854-2768
鹿児島 （099）812-1200
宮崎 （0985）25-3877
熊本 （096）381-7626
長崎 （095）864-6001
福岡（支）（092）531-3861
北九州 （093）941-4026
下関 （0832）55-1130
広島 （082）230-2351
松江 （0852）21-5341
岡山 （086）252-5800
松山 （089）973-5656
高知 （088）882-0991
高松 （087）865-3666
姫路 （0792）34-6669
神戸 （078）843-3200
大阪（支）（06）6635-2222
工事営業部（06）6632-1144
京都 （075）646-3800
津 （059）234-0261
岐阜 （058）275-0805
名古屋（支）（052）802-2233
工事営業部（052）804-6262
豊橋 （0532）33-1500
静岡 （054）283-2220
松本 （0263）57-4625
福井 （0776）23-8153
金沢 （076）249-5301
新潟 （025）287-3155
横浜 （045）784-1422
渋谷（支）（03）3409-5505
工事営業部（03）3499-5631
青戸 （03）3695-1811
八王子 （0426）37-1699
千葉 （043）232-5335
さいたま （048）663-8000
前橋 （027）263-3767
水戸 （029）248-3870
宇都宮 （028）660-5008
郡山 （024）952-0095
仙台 （022）786-5060
盛岡 （019）641-1500
秋田 （018）862-7523
青森 （017）742-4227
函館 （0138）53-7355
札幌 （011）782-0711
釧路 （0154）23-8466
旭川 （0166）25-3111
北見 （0157）36-6606

2K55-631
B・45-4631-1L
MAY,2004